

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092400025		
法人名	株式会社 彩華舎		
事業所名	グループホーム さら		
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町白倉831-58		
自己評価作成日	令和3年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://saikasha.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様それぞれの生活リズムに合わせて、ご自分のペースでゆったりと過ごしていただける環境を提供している。季節ごとの行事や散歩やドライブなど健康的で文化的な生活を送っていただけるような取り組みの実施。

職員ひとりひとりが利用者様に関する事を主体的に考え、職員間で相談や共有を密に行い、生活の質の改善に取り組んでいる。管理職と一般職の距離が近く、業務の改善や大変なことを気兼ねなく相談できる職場環境作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

散歩を日課として、そうした機会は、利用者の心身の健康のみならず、地域への認知度向上にも繋がっており、野菜を持ってきてくれるなどの隣近所のつきあいに発展している。運営推進会議にも区長や民生委員をはじめ、地域住民が参加しており、コロナ禍前には会議に合わせて避難訓練も行われ、そうしたなかで、事業所のAEDを地域住民が使えないかとの相談があるなど、地域との関係が築かれている。利用者の支援においては、声をかけたり、黙ってそばに寄り添ったりしながら意向をつかみ、墓参りやこれまで食べていたものを買に行ったり、重度化しても皆と同じ共用スペースで過ごしたりなど、理念に基づいた実践に努めている。また、家族との関係づくりにおいては、運営推進会議の結果を報告したり、毎月職員が手紙を書いたりなど、きめ細かい情報提供がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そのひとらしく、ありのままにゆったりと」の理念が定着しており理念の変更はしていない。管理者、職員は毎月行うスタッフ会議にて利用者様の生活について理念に沿ったケアの実践が行えているか話し合いを行っている。	理念をもとに、利用者のペースで生活が送れるように、職員は事業所都合ではなく利用者優先の生活実現に努力している。職員は、理念実現を目指すことをやりがいと感じ、スタッフ会議で話し合われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町開催の敬老会や、ニコニコ甘楽にて行われているオレンジカフェへ参加していたが、コロナウィルスの関係にて交流自粛中。	コロナ禍前は、町の敬老会やオレンジカフェを、交流を楽しめる利用者への機会づくりとしていたが、現在は中止している。近隣への散歩で挨拶をする機会はあるが、交流を控えている状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェへ参加し地域の方と交流を増やしていたが、コロナウィルスの関係にて自粛中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し町の職員様、地域の方、ご家族様へホームの入居状況・活動報告を行い意見交換等を行っていたが、コロナウィルス関係にて開催できず。入居状況等の書類を作成し郵送している。	コロナ禍で会議は開催しておらず、構成メンバーに会議内容を郵送で報告している。開催時は、区長・民生委員の他、地域住民や家族数名の参加があり、ざっくばらんに話せる会議となるようにしている。今後、さらに情報発信していきたい考えがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月ホームの入居状況・活動報告書・事業所便りを作成し、報告とともに提出している。また認知症介護実践者研修の選考に漏れてしまった際は、協力して下さった。	毎月、町に書面で、入居者の状況や活動状況などの報告を行っている。町に相談して協力をさせていただいたり、町による災害時の福祉施設の連携があるなど、協力関係がある。また、地域包括支援センターとも情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し身体拘束適正委員会の構成あり。夜間以外は玄関の施錠は行わず玄関にセンサーを設置し対応している。	県主催の会議に、管理者・ケアマネジャーが参加し、研修内容を職員に伝えている。椅子をテーブルに近づけ過ぎて利用者の行動を制限するようなことのないように注意するなどしている。また、スピーチロックについては、管理者が職員の様子を見ながら、適宜声かけして注意喚起し、防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナウィルス関係の為、オンラインの研修に参加し身体拘束の理解を深めた。また、職員的心情・表情・声掛け・人間関係を把握し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員が施設外研修へ参加する機会を設けているが、コロナウィルス関係にて今年度は自粛中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書に基づきご家族様の納得が得られるよう十分な説明を行っている。また、入居後に不明点が出て来る場合もある為、ご家族様面会時には心配な面はないか等の確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時は管理者や職員がご家族様へ声掛けを行い、相談や意見交換が行える環境作りを行っている。また今年度は行ってないが、ご家族様へアンケートの協力をお願いし運営に反映する事もある。	面会時に報告をしながら家族とやりとりをするなか、行事のことや感染対策をした面会についての意見や感想などを聞いている。インフルエンザ流行時の面会についてのアンケートを実施し、対応に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者より各職員へ意見や提案を聞く機会を積極的に行っており、出て来た議案は全職員で共有し反映させている。	月1回のスタッフ会議で、業務における改善点なども話し合われている。そうしたなか、利用者がすぐにデッキへ出られるように机の配置を変更したり、散歩の時間や外出について検討したり、様々な話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の特性に合わせた指導を行い得意分野を活かせるような仕事を願っている。また、本人の希望を確認しながら昇格や昇給し向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を周知し、個々の職員が興味を持った研修、能力に合った研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議が開催された際は参加し、他施設の情報を聞きサービス向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自ら要望を伝える事が出来る方へは傾聴し職員間にて情報共有を図り関係作りに努めている。要望を伝える事が困難な方は、表情や行動を見て声掛けを工夫したり要望を伝えやすい環境作りを行い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、入居時にこれまでの生活状況や心理状況を伺いご家族様の要望をくみ取り、ご家族様が安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様の心理状況や経済状況を勘案し、当事業所以外のサービスが適していると判断された場合は他サービスを紹介するなどの相談・支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・野菜の皮むき・畑仕事や庭の草むしりを一緒に行いながら関係作りを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は直近の生活状況を伝え、状況に応じて協力して頂けるような関係作りに努めている。また毎月、事業所便りと1ヶ月の様子を記した手紙を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなくどなたでも面会できるよう対応している。(ご家族様、親戚の方、近所の友人の方等)今年度はコロナウィルス関係にて面会制限あり。	コロナ禍前は、友人や職場の人が面会に来ていた。利用者が大切にしている墓参りや、これまで食べていた卵を買いに利用者や養鶏所に行ったり、これまで家庭で行っていた草むしりを事業所で行っていただいたりなど、生活の中で馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を考慮し席替えを行う事がある。ご本人様の意向を重視しつつレクリエーションや家事支援、散歩や外出が楽しく円滑に行えるよう職員が段取りをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの連絡や訪問があった際には必要に応じて相談や支援を継続して行くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と関わる時間を多く持ち、発言・表情・反応・昔話を元に意思の把握に努めている。意思疎通の困難な方は、表情を見る事を重要視し、ご家族様方からの情報も役立てている。また職員間で情報共有を行っている。	利用者がひとりであることがないように、話しかけたり、そばにいたり、状況に合わせて対応し、関わりを持つようにしている。ときには、郷土の言葉を使いながら引き出したり、慣れ親しんだ分かりやすい言葉で伝えたりして、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様とご家族様から聞いた情報を照らし合わせ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の行動・発言・表情、出来事等を各勤務帯毎に生活記録として残し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の意向や状況、ご家族様の意向を伺い、職員、ケアマネージャーで話し合い作成している。	介護計画は、1か月後・2か月後・3か月後と毎月モニタリングを行い、3か月毎に見直しをして、その際には、家族の意向も確認し、次の介護計画に繋げている。介護計画を意識した記録に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや実践情報、その結果を申し送りし、個々の生活記録に残す。後日スタッフ会議にて検討し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、電話等の要望が聞かれた際は、ご家族様と相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が知っている地域の馴染の場所へ外出する機会を作っていたが、コロナウィルスの関係にて実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、受診へ行く方・往診対応を希望する方がいる。体調変化がみられた際には電話にて上申し、臨時受診や臨時往診対応が行えている。	これまでのかかりつけ医を受診したり、事業所の協力医の往診を受けたり、希望に沿った対応がなされている。家族が受診する際には、事業所での状況を家族に口頭で伝えている。また、家族が通院付き添いが難しい場合には、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化や状態を看護師に相談し対応や受診の相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者も同行し、ホームでの生活状況を報告している。担当医師様、ソーシャルワーカー様、ご家族様と情報交換や意見交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書に看取りの指針を記載している。段階に応じて、ご家族様の意向、主治医医師様の見解を伺い、ケアマネジャー・看護師・全職員にて連携し対応している。	入居時に、事業所で看取り対応をしていることを伝え、そうした状況になった時に再度、医師との連携も含めて、説明及び話し合いを行っている。これまでに看取りの実績があり、コロナ禍のなか昨年度は3件の看取りを支援し、面会しやすいように居室を変更するなど家族との関わりも大切に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊員立ち合いの元、AED訓練を行っていたが、コロナウィルスの関係にて行っていない。急変時の応急マニュアルはファイル化してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防隊員立ち合いにて避難・消火訓練を行っていたがコロナウィルスの関係にて、自主訓練を行った。	年2回、昼夜想定で避難訓練を行い避難時間を計測し、夜間想定においては、男性職員と女性職員での誘導時間の違いに気づくなどの発見がある。以前には、運営推進会議に合わせて実施し、誘導後の見守りの必要についての意見も出ており、今後に活かす考えがある。	地域の住民に協力していただけるような働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関わりを大切にし、利用者様に合わせた声掛け、言葉を使用している。気になる点は職員同士にて話し合いを行い、第三者が聞いて不快に思わない言葉かけ対応を行うようにしている。	利用者が反応する声かけや、分かりやすい表現に配慮している。利用者それぞれの感じ方に合わせて、そのひとが不快にならないような会話を基本としている。入浴など、自分でできるという利用者には、そのことを尊重しながら、誇りを損ねないよう介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染のある言葉や発音、理解しやすい簡潔な言葉がけで自己解決しやすいように努めている。伝える事が困難な方・困難な場面では、表情の変化をくみとったり二択で選んでもらう等の働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間は決まっているが、起床時間、食事の時間、就寝時間は、その日の体調や状況に応じて一人一人が自分のペースで過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服選びが行えるよう、衣替えを行っている。また、洋服のボタンつけや綻びがないか、窮屈ではないか等の確認も行っている。毎朝、入浴準備時は洋服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者様の咀嚼・嚥下機能に合わせた食事形態にて、量の調節・好みを取り入れた食事を提供している。配膳時にはメニューの案内を行っている。野菜の皮むき、みそ汁作り、お米とぎ、食器洗い等のお手伝いを職員とともにやっている。	業者から献立に基づいた食材が届き、職員が調理している。献立の案内をしながら、食を高めたり、季節を感じる会話の糸口としている。利用者には皮むきやみそ汁づくりをしてもらったり、朝遅く起きる方には、他の利用者と無理して合わせないようにするなど、食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は常時数種類の飲み物を用意しており、利用者様に飲みたいものを尋ね時間にごたわらず提供している。食事は食事量に応じて代替品(パン・プリン・ヨーグルト等)を準備し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者様に合わせた声掛け、介助、見守りにて口腔ケアを行っている。スポンジブラシ・歯間ブラシ・リステリンを使用しケアを行っている利用者様もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表や表情・行動から排泄の兆候や排泄リズムの把握に努めトイレでの排泄を支援している。	排泄時間(記録)を見ながら、トイレでの排泄ができるように誘導している。トイレでの一連の手順が自力でできるように、ときには、職員が声をかけて、混乱しないように支援している。また、夜間は、必要に応じポータブルトイレを居室に用意して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床後に牛乳(苦手な方には水又は白湯)提供を行っている。また1日の水分量の把握、散歩を行ったりトイレ時に腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行い、利用者様に適した声掛けにてお誘いしている。利用者様の反応や発言を聞き入浴を見送る日もある。また湯船に浸かるか、シャワー浴希望かを都度利用者様に確認し、その日に合わせた対応を行っている。	週2回を入浴とし、入浴を断る場合には無理強いせず翌日に変更するなどしている。入浴を断る人への声かけを試行錯誤しながら行った結果、入浴につながる言葉かけを発見し、スムーズな入浴につながっている。肌が弱い人は、これまで使っていた石鹸を使った洗髪を継続して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染の寝具を使用し就寝時の照明も利用者様の希望に沿って調節している。ベッドではなく座敷を好んだ方は座敷に布団を敷き対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の疾患を把握し、薬の効能・用法・副作用について確認している。特に薬変更時は、申し送りノートやスタッフ会議を活用し情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様が興味のある事や好きな事を把握し、その方が楽しめる事を提案・提供している。 ・花を見る・歌を唄う・散歩へ出かける・塗り絵等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し、利用者様の希望に沿った場所へ外出できる機会を作っていたが、コロナウイルスの関係にて減少。人と接触しないドライブや、人がいない場所へ桜を見に行った。	午前中の散歩を日課としている。また、デッキには自由に出られるようになっている。春には、桜が見たいという利用者の希望に応え、コロナ禍のため観光名所ではない、人がいない桜が咲いている場所へ案内し、楽しむように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人で金銭を所持している方はいない。購入の希望が聞かれた際は、ご家族様へ相談しホームが立替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が聞かれた際にはご家族様へ相談し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度は利用者様に確認を行いながら調節している。フロアや廊下に写真を貼ったり、利用者様が散歩で見つけたお花を飾っている。フロアからデッキへすぐに出られるようにしている為、外の空気を吸え季節感を感じていただけている。	散歩で摘んだ花を飾ったり、その花を見て散歩に行かなかった人も含めて会話が広がったりしている。また、外のデッキに安全に出られるようなテーブルの配置にしたり、ソファ等で過ごせるようにしたり、居心地よい空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの向きを様々にしたりデッキの日向に椅子を置き、利用者様が自分の過ごしたい場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅で使用していた馴染みの品物を持ってきて頂き、個々に合わせた部屋作りを行っている。	使い慣れたものを持ってきてもらえるように説明し、孫の写真や位牌・大正琴・マッサージ機などが持ち込まれている。また、花が好きなので花を飾ったり、テレビの音で目覚めるようにしたりなど、生活環境に合わせた居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様がご自分の居室を確認できるように氏名を書いたプレートを居室入り口に設置。廊下やトイレには手摺がついている。また夜間帯は居室にポータブルトイレを設置できるようにしている。		